

「幸せ」を考える

福井県立藤島高等学校 二年 豊田 穂香

「世界で一番幸せな国はブータンなんだって。」私はこのことを聞いた時、ふと自分の住んでいる県を思い出した。私が住んでいる所は福井県。二〇一一年の都道府県別幸せ度ランキングで見事一位になった。それは、犯罪や事故の少なさ、持ち家率、平均寿命など四十のデータから分析されたもので、全国の中から福井県が一位に選ばれたそうさ。

私は約三年前に神奈川県から福井県に引っ越してきた。引っ越してきた当初は、周りに本当に何も無いことにびっくりした。神奈川では、周りには高層マン

ションが立ち並び、大きなショッピングモールがすぐ近くに見えていることが当たり前だったからだ。「こんな場所はテレビの中になしか出てこないのだと思つた。」。本当にここで過ごしていけるのだろうか。」私は真面目にそう考えていた。しかし、私の周りの人たちは皆温厚で、私はすぐに慣れることができた。

店がたくさんあって、人がたくさんいて、何でも手に入りそうな神奈川県。店のかわりに自然が多くて、方言がとびかっている福井県。それでもランキングでは福井の方が上位だった。

最初の話に戻ると、ブータンはGNH(国民総幸福量)が世界で一位だったそう。調べてみると、GNHとは、心理的幸福、健康、教育、文化、環境、コミュニケーション、良い統治、生活水準、自分の時間の使い方の方の九つが一位だったそう。けれども、ブータンは発展途上国であり、ランキングの対象となっていた他の先進国に比べてものを手に入れることが困難であったり、設備が充実していなかったりすると思うのに、なぜ一位だったのだろうか。

私が小学生だった時、一年生の時にはブラジル人の男の子、五、六年生の時にはバングラデシユ人の女の子が同じクラスにいた。二人とも、日本語が全く理解できないわけではなかったが勉強面では苦労しているように思われた。特に私が感

じていたのは、文化の違いである。当時の私には、学校では禁止されているはずなのに、ピアスをつけていることや、マニキュアを塗っていることは信じられなかった。しかし「国々によって文化や考え方が異なっており、ピアスにも魔よけの意があるんだよ。」と担任の先生に教えてもらった。小学生だった私はあまり理解できなかったが、いろいろな国の、いろいろな人がいるのだ、ということを知った。

このことからわかるように、文化や考え方が違うのならば何を幸せと思うのかも違ってくるのではないだろうか。

ブータン国立研究所の所長であるカルマ・ウラさんはこう言うそうだ。

「経済成長率が高い国や、医療が高度な国、消費や所得が多い国の人々は本当に幸せだろうか。先進国でうつ病に悩む人が多いのはなぜか。地球環境を破壊しながら成長を遂げて、豊かな社会は訪れるのか。他者とのつながり、自由な時間、自然とのふれあいは人間が安心して暮らす中で欠かせない要素だ。」

他者とのつながり、自由な時間、自然とのふれあいは、人間が本来幸せと感じること、ものであると思う。私たちは、何でも手に入れることができるようになったばかりに、それらを忘れてしまっているのではないだろうか。

幸いなことに、私が住む福井県では、他者とのつながり、自由な時間、自然とのふれあいを感じるが多々ある。おそらく、福井やブータンが一位になった理由の一つであろう。私は、まず自分の身近にあるそのような幸せを大事に想い、守っていきたい。そして、県外や国外へ行く時にはそれらを広められるように努力したいと思う。